

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

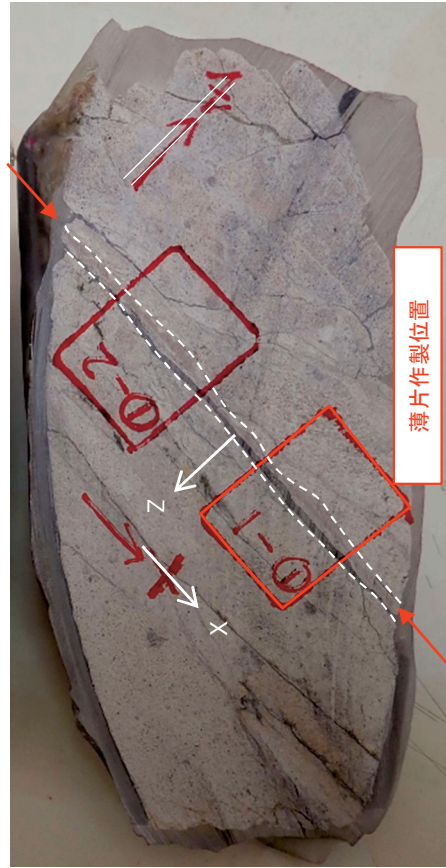
コア写真

※断層面 α は最新活動面



薄片作製位置写真

薄片全景写真(単ニコル)



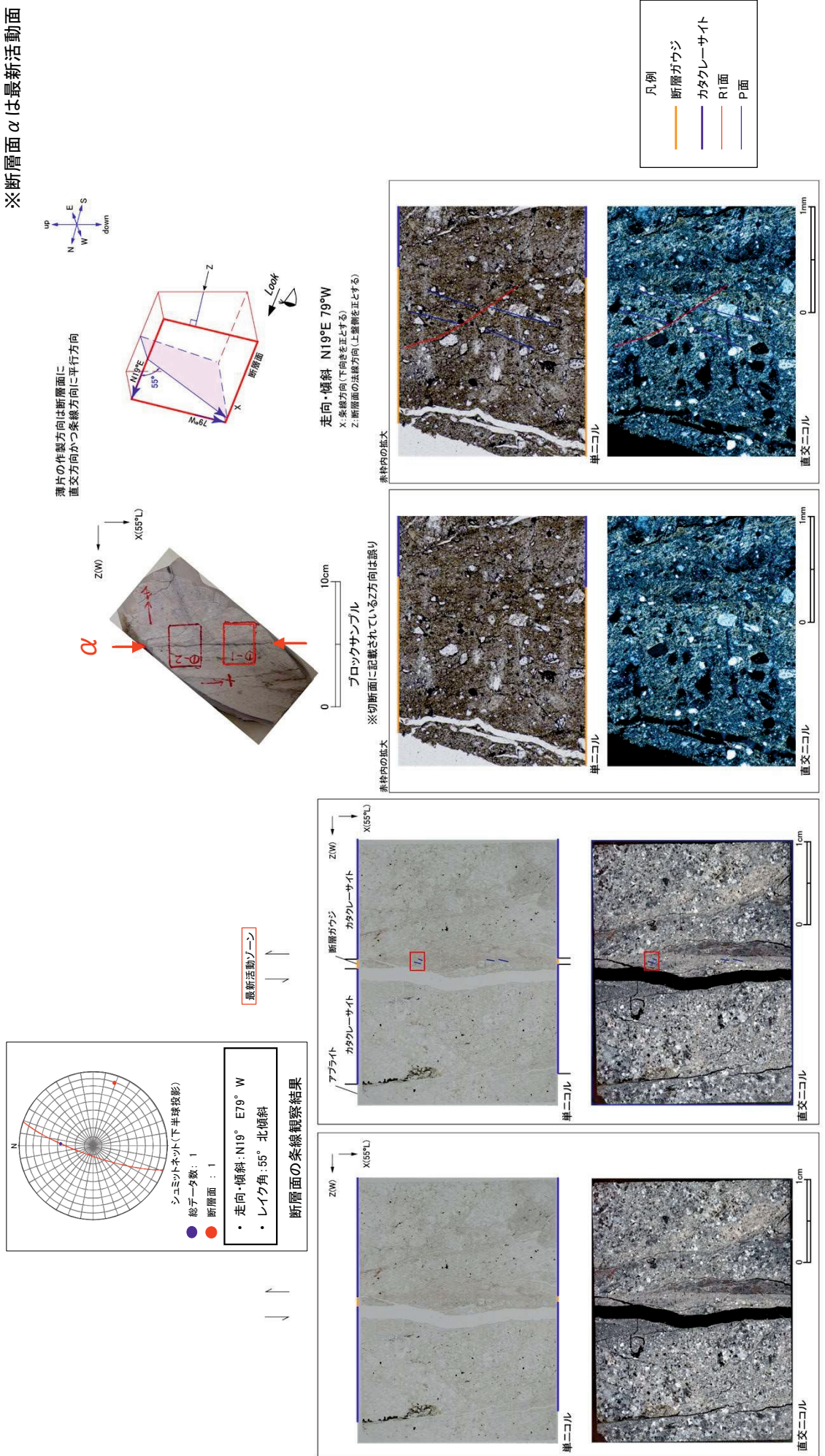
X: 糸線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)
 ※切断面に記載されているZ方向は限り



X: 糸線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

- ・ H29-ReB14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・ 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - (断層ガウジ) セン断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。

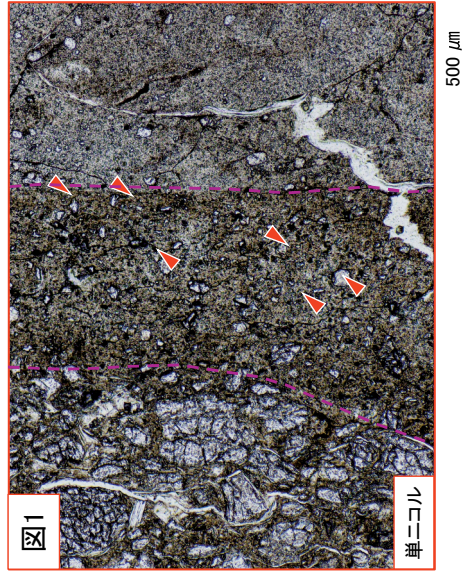
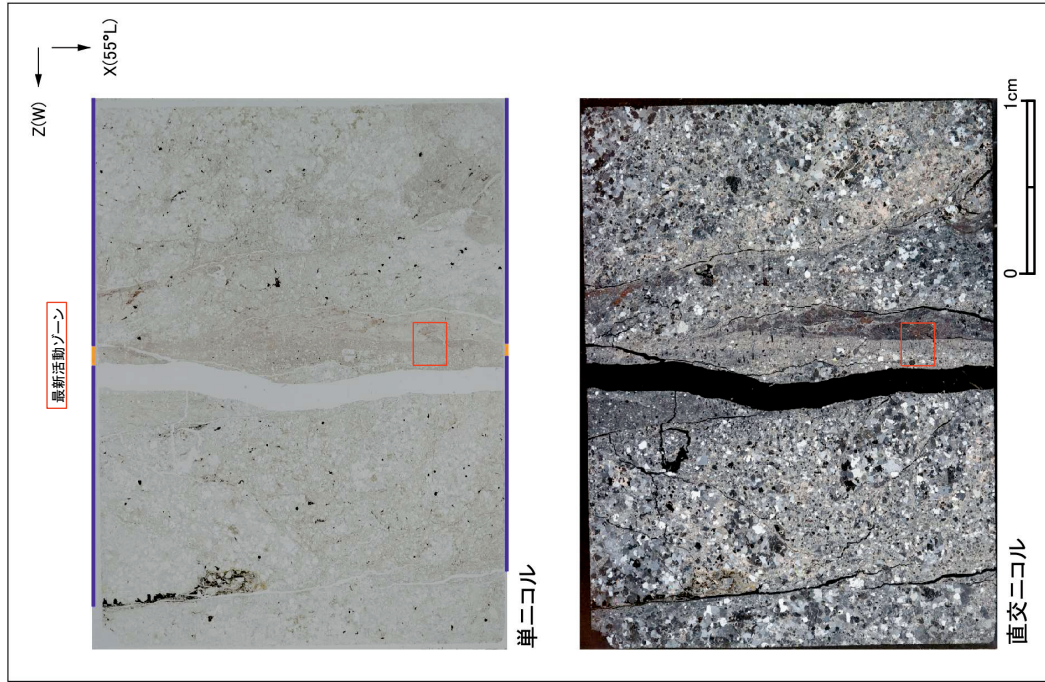
※断層面 α は最新活動面



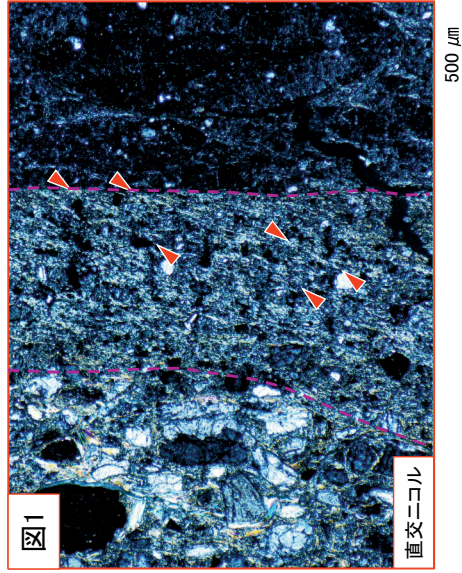
第7.4.4.354図 (3) 破砕部性状 H29-ReB14-2 深度105.26~105.50m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図1)
- 岩片は少ない。(図1)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1)



破線は粘土状部の分布範囲を示す
赤三角は粘土鉱物の定向配列を示す



(肉眼観察結果 深度105.37m)

- 深度105.37mには赤灰色粘土を挟在している。粘土は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - セン断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された赤灰色粘土は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	0.3	有

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合「一」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

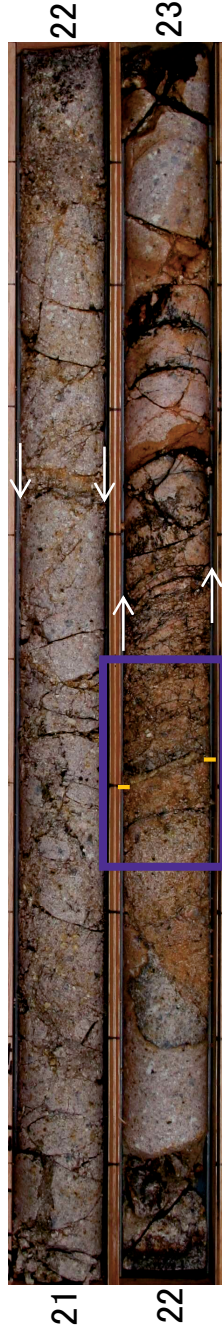
・深度21.63～22.57mの「岩片状」と記載の箇所については、全体的に硬質で、細粒部はほとんど分布せず、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことからカタクレーサーサイトであると判断した。

・一方、深度22.41mにはフィルム状の細粒部が挟在している。幅が狭いため、肉眼観察では原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかつたが、細粒部の連続性及び直線性が良いことから断層ガウジとして扱うこととした。

ボーリング柱状図

●21.63～22.57m：破砕部
 21.63～22.57m：岩片状部(Hj)
 上端10°で波打つ、下端22°で直線的。明褐灰～橙色を呈する。
 22.11～22.26m：風化・変質の影響が軽微でコアは柱状をなし、ハンマ一の打診で金属音がする。破砕部中の中石である。
 22.26～22.41m：傾斜60°と20°の割れ目間は岩片状コアとなる。
 22.41mの傾斜20°の割れ目に褐色のフィルム状の細粒部を挟む。

コア写真



凡例
 断層ガウジ
 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

褐色のフィルム状細粒部の連続性・直線性は良い



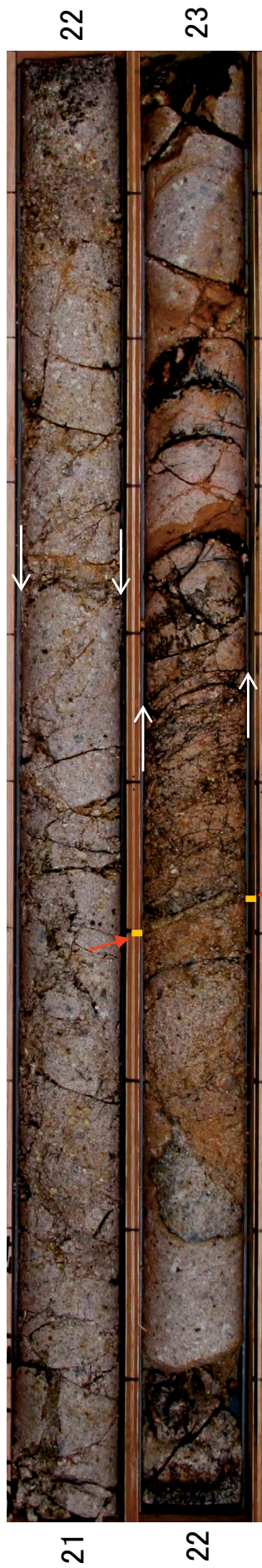
青砕部拡大

0 5 cm

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

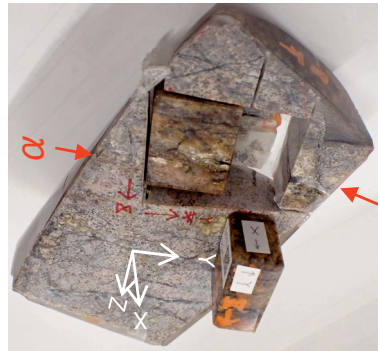
コア写真

※断層面 α は最新活動面



α

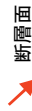
薄片作製位置写真



5cm

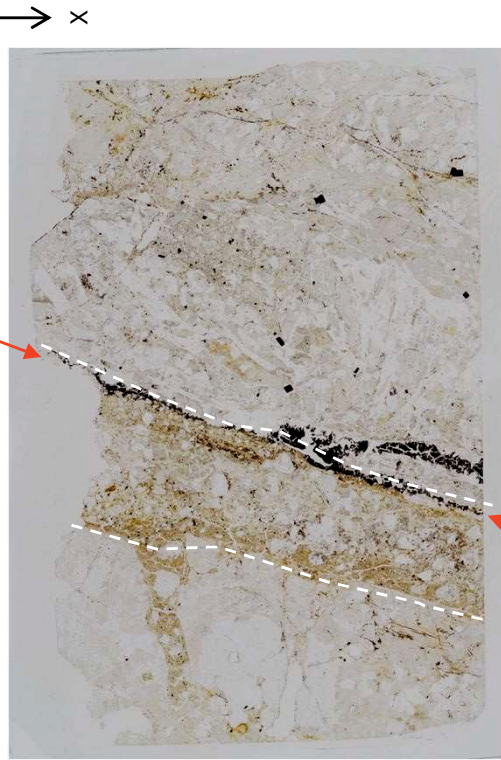
X: 糸線方向(下向きを正とする)
Y: 傾斜方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上強軸を正とする)

凡例



断層面

薄片全景写真(単ニコル)



1 cm

X: 糸線方向(下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上強軸を正とする)

凡例

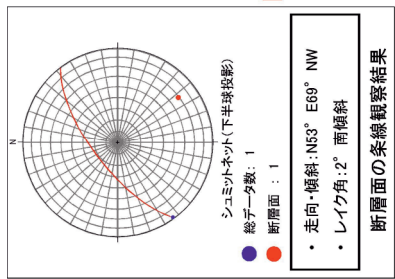


断層面

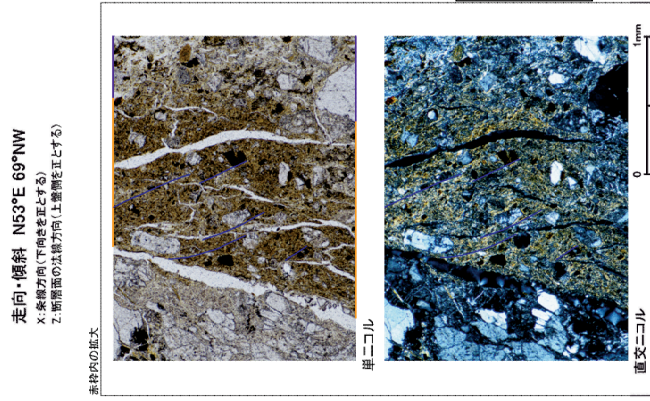
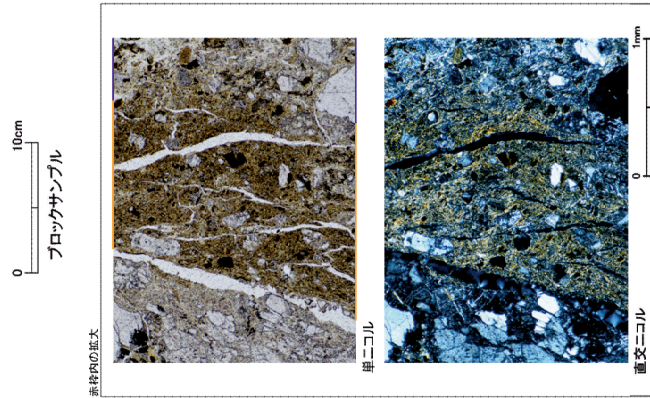
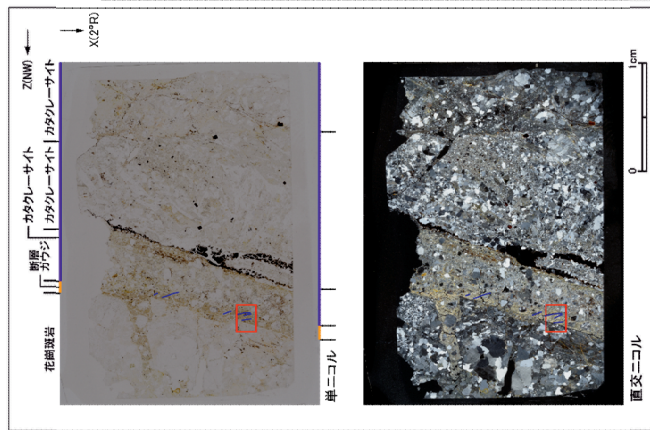
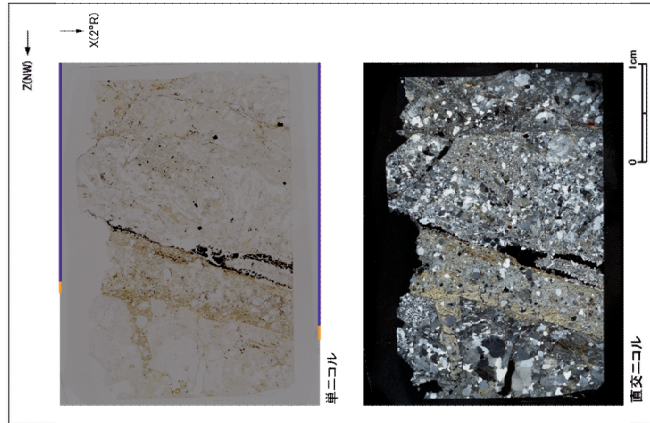
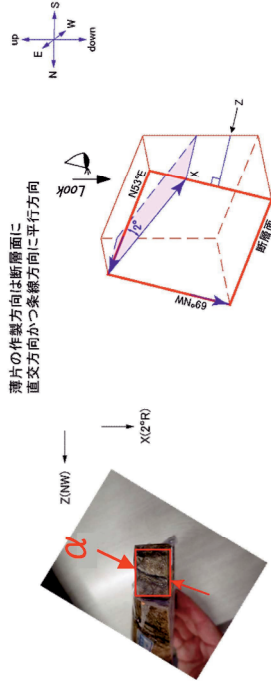
肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※: 写真上は白色又は黒色で記載

- ・H24-B14-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位セシスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - (断層ガウジ) せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 岩片は少ない。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。



※断層面 α は最新活動面



凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト
R(面)
P(面)

第7.4.4.355図 (3) 破砕部性状 H24-B14-1 深度21.63~22.57m (変位セシス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))